

易・ユング・シンクロニシティ

ユングのシンクロニシティの概念は「なぜ易が当たるのか」を模索する中から見いだされたと考えられています。1920年頃、ユングは易の研究に取り組みはじめました(「ユング自伝2」みすず書房)。そして、ある程度分析が進んだ患者、ユング自身も状態の把握に苦しむ患者に対して易を立てるようになりました。晩年になるに従い更に易に傾倒していったと言われています。

当初、葦の束を筮竹代わりに用いていましたが、後には3枚のコイン投げて易を立てていました。河合隼雄先生もチューリヒのユング研究所で、教育分析中に患者との対応で迷ったときには易を立てていたことを報告しています(「宗教と科学の接点」岩波書店)。

この講座では、シンクロニシティ現象の実例を通してその神秘を解き明かすとともに、ユングがどのように易に関心を持ち、その有効性を解明しようとしたのか、更に実際の易の立て方とその解釈の基礎、どのように実生活に役立てていくのかを学びたいと思います。

なお参加者は各自、塩水に一晩つけた10円玉を3枚ご持参ください。

講師：定方昭夫(元長岡大学教授・心理学)

日時：2017年2月12日(日) 10:00-16:00

場所：石神井公園駅周辺の会場(予定)

参加費：10000円 臨床心理士更新ポイントとして
申請予定



<参考文献>

- ・定方昭夫著「偶然の一致はなぜ起こるのか」河出書房新社(1999年)
- ・C.G.ユング・R.ヴィルヘルム著、湯浅泰雄・定方昭夫訳「黄金の華の秘密」人文書院(1980年)



ソンディ心理学研究所

〒177-0041 東京都練馬区石神井町 3-25-4 ダイアパレス石神井公園 510号室
TEL:03-6386-0482 E-mail info@szondi.jp URL: <http://www.szondi.jp/>